

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1842号 2006年09月04日(月)

《 more slower growth for the U.S. 》

「鈍化はしている。しかしリセッションの臭いはない」というのが、先週発表された一連の経済統計が指し示すアメリカ経済の姿だった。この結果9月20日の次回FOMCでは前回に引き続き金利引き上げが見送られる可能性が強まったと言える。

今のアメリカ経済の姿を最も端的に示したのは、金曜日に発表された雇用統計である。注目された非農業部門の就業者数は12万8000人の増加と、今年上半期の平均就業者数の増加数14万6000人を下回った。最近数ヶ月の米雇用の動きを見ると、15万は上回らないが、10万は下回らないという状況が続いている。一方で賃金の上昇は続いているものの、それほど速いペースではない。

こうした観点から見ると、「アメリカ経済は安定した成長軌道に落ち着いた」と考えることが可能である。一部にあった「住宅市場のクールダウンとともに、アメリカ経済はかなり鈍化する」との見方があったのは懸念としては当然だったが、そうした大幅鈍化は起きていないことになる。失業率も8月は4.7%で7月よりは0.1%低下したが、最近の米失業率は4%台の後半で落ち着いている。

むろんやや違った米経済の姿を示す統計もあった。例えば、ミシガン大学の消費者信頼感指数は、ガソリン価格の低下傾向が鮮明になる中で8月上旬のレベルから明確にリバウンドした。全体的には高水準ではないが、アメリカ経済の強さはいくつかの指標では残っていると見える。

米短期金利の横ばい予想、また長期金利の低下傾向を見て、ドル安再燃を予想する向きもある。例えば4日の日経金融朝刊の「マーケットアイ」だ。「米利上げ停止でドル安再燃」という記事である。

この記事はドル・円相場を念頭には書かれていない。むしろドルと人民元の間を論じているように見えるが、日本にとって問題なのは今の全般的な円安傾向（ドルばかりでなく、ユーロ、オージー、ポンドなどに対する全般的な）がどうなるかだ。筆者は、ドルが例えばユーロなどに対して徐々に弱くなる可能性は高いと考えているが、そうしたドル安が直ちに円高につながるとは考えていない。

というのは、日本の投資家が置かれた金利環境を考えてみると、確かにドル金利の上昇予想は弱まっているが、だからと言って円金利の上昇予想は非常に弱く、恐らく年内のもう一回の利上げの可能性はあまりないだろう。ということは、日本と他の諸国の金利差は

残ると言うことである。ユーロや対アジア諸国通貨に対するドル安が、そのまま円高とはならない可能性が強いということである。

《 lower dollar ?.....yes.....but 》

ドル安の兆候はある。ユーロとドルの関係を注意深く見ていると、例えば今だと1.2750ドルの水準で異常にユーロが底堅い。誰かがレベルを決めて買っているとしたか思えない状況である。どこかの中央銀行とか大きな機関投資家の動きとも思える。重要なのは、こうした「レベルを決めた買いの水準」が徐々にユーロ高・ドル安の方向にゆっくり移ってきている印象がする。ユーロ買いのレベルが上がってきている、ということである。

金利面でもこの動きは説明できる。トリシェ ECB 総裁は10月の利上げを予告しているが、8月のアメリカの雇用統計を見ると9月末のFOMCは利上げ見送りとなる可能性が高い。となれば、欧米金利差は縮小する。最近ではその関係が希薄になったとはいえ、欧米間では金利差が比較的素直に資本の出入りに反映する。

今朝の日経金融新聞には、ポジションの欄に「ECB 利上げ来年も？」という記事もある。疑問符付きだが、ユーロ金利には上昇余地が大きいということだ。この記事の中には欧州の政策金利は来年春には3.75%になると述べるエコノミストの発言も載っている。ということは、ドルはしばらくユーロに対しては安値追いになるということだ。欧州側が「これ以上のユーロ高は困る」というレベルまで続く可能性がある。

ドル安はアジア通貨、特に人民元やその周辺の通貨に対しては可能性が高い。そもそも政治的な圧力としては人民元高・ドル安のバイアスがかかっている。この政治的圧力はアメリカが中間選挙という政治の季節を迎えることでも加速するだろう。ということは、ユーロに続いてアジア通貨に対してもドル安が進む可能性がある。

しかし日本の円を巡る環境は、金利差のある通貨に対する資金の流出傾向が続くだろう。それは時々急激な円高という調整を経ながらも、当面は続くだろう。ただし最近の急激な各国通貨に対する円安は、ちょっと足が速すぎる印象がする。

今週の主な予定は以下の通り。

9月4日(月)	4~6月法人企業統計 野村証券、銀行代理店業務開始 米国株式市場休場(Labor Day)
9月5日(火)	米議会再召集 アジア太平洋石油会議(~7日・シンガポール)
9月6日(水)	英中銀金融政策委員会(~7日) 米MBA住宅ローン申請指数 米8月ISM非製造業景況指数 米ページブック

9月7日(木)	7月景気動向指数(速報) 日銀金融政策決定会合(~8日) 米7月卸売在庫 米サンフランシスコ連銀総裁講演(「経済見通しについて」)
9月8日(金)	APEC 財務相会合(~8日・ハノイ) 8月景気ウォッチャー調査 福井日銀総裁定例記者会見 日銀金融経済月報 自民党総裁選告示

《 have a nice week 》

だいぶ秋らしくなってきましたが、週末はいかがでしたか。でも昨日は暑かった。9月中旬になると秋も深まるでしょう。

先週の木曜日の地震には驚きましたね。久しぶりの直下型。防災の日の直前。「神様は見ているのでは」とも思ってしまふ。銀座のスタジオにいるときで、地震はすぐ収まったのですが、「あれもこれも持ってない」と反省。水なし、ラジオなし。本当の地震が起きたら、携帯電話など直ぐに使えなくなってしまうでしょうね。行政の対応などいろいろ問題はありますが、個人の対応も非常に重要です。

ところで、先週初めてタクシーでエディーを使いました。安全タクシーというタクシー会社のタクシーに乗ったら、窓に「edy」のマーク。運転手さんに「エディーが使えるの」と聞いたら、使えますと。そりゃ面白いというので、エディーで支払いましたが、簡単でいい。クレジットカードでタクシーに乗るのが嫌いなのは時間がかかるからですが、エディーだったらあの音とともに一瞬ですから許せる。

カードがらみで気づいたことと言えば、スイカの入金限度がいつの間にか20000円になっていました。前は確か15000円だったと思った。エディーに揃えたと言うことでしょうか。スイカはビッグカメラでも使えるようになったのですから、ちょっと金額を上げないと。しかし上げると窃盗の対象になる。難しいところです。

9月20日に「カウンターから日本が見える」という本を新潮社から出します。新潮新書です。「料理カウンター」という存在が日本にしかないことに着目した本です。11月末には、先に特集したインドに関する本を日本経済新聞社から出します。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成

時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》